

南市民センター移転説明会概要

会議名	南市民センター移転説明会
日時	令和6年3月10日（日）13時～15時30分
場所	南市民センター集会室
出席者	市民 153人 橋本政策推進課長、酒井政策推進課主幹、大越政策推進課主査 有路総合政策部企画調整幹 清水地域活動推進課長、砂生地域活動推進課主幹 町田企画調整幹兼南市民センター主査、青木南市民センター主任

1 鶴ヶ島駅周辺地区まちづくり、南市民センター移転・整備、新施設の整備基本計画策定の進め方について説明

2 質疑

【ワークショップの募集 意見・要望への対応】

参加者 令和4年度、鶴ヶ島駅周辺地区まちづくり構想策定時のワークショップに参加した。市民意見を反映するのにワークショップは有効である。今回のワークショップの参加募集方法は。市全体から募集するワークショップメンバーと施設を利用する自治会や市民センター利用団体とでは意見や要望が異なるがその対応方法は。

鶴ヶ島市 ワークショップの募集については、市のHPや広報で周知する。様々な意見を集約するのがワークショップと考えている。自治会や利用団体は、ワークショップとは別に意見を聴取する機会を設けたいと考えている。

【都市機能誘導区域の範囲】

参加者 都市機能誘導区域の範囲について、鶴ヶ島第二小学校辺りは含まれていないが、第二小学校なども事業の予定はあるのか。

鶴ヶ島市 都市機能誘導区域は、鶴ヶ島駅からガーデンパークまでの鶴ヶ島駅通りの沿線区域である。第二小学校やその周辺で整備を行う予定はない。

【現センターの活用】

参加者 南市民センターは、新施設完成後に解体するのか。耐震補強し避難所として活用すればよいのではないかと。避難所は多いほうがよい。

鶴ヶ島市 市では、令和元年度の立地適正化計画及び令和3年度の公共施設個別利用実施計画の中で、学校も含め市全域で施設の集約を進めることとしている。鶴ヶ島中学校・西中学校の再編統合などもそうだが、鶴ヶ島文化会館敷地に南市民センターの移転を計画し、施設の集約・複合化を位置付けてきている。なお、南市民センターは、解体する予定である。

【子どもの支援策と全体経費】

参加者 個人的には南市民センターは現状のまま残してほしいと考えている。なぜ、移転しなくてはならないのか、説明で少子高齢化とあったが、全国的には少子化でも、鶴ヶ島市は子どもが減っているようには思えない。工夫して人口減にしない施策を

すればよいのではないか。少子化対策で増やそうとしているのに矛盾している。子どもの対策はどう考えているのか。また、計画の全体額はいくらなのか。

鶴ヶ島市 年少人口については、近隣市町と比較し減少幅は小さいが、減っているのは事実である。国全体で人口減に見合う施設等の集約化を図っていく方向であり、施設を集約を推奨している。市では以前から計画的に立地適正化計画により、学校も含め市全域で施設を集約を進めている。

また、公共施設の借地料も課題となっている。市全体で年間1億円の経費が掛かっており、現在の南市民センター用地もすべて借地である。

人口減への対策として、駅通りの歩行空間を確保することでの安全確保やガーデンパークを利用した交流などで魅力あるまちづくりを進め、若い人に住んでもらうことで好循環を生んでいきたい。計画の全体額は、約12億7千万円である。

【バリアフリー対応】

参加者 私は聴覚障害を持っている。聞こえない人の集まりで、南市民センターを利用しているので、本日、話を聞きに来た。今回の説明の内容は理解できた。借地よりも市有地が良いと思う。6か所の市民センターは老朽化しており、バリアフリーにも対応しきれていない。今後とも積極的に計画を進めていただきたい。今後のワークショップでも障害者の意見を取り入れながら進めていただきたい。

鶴ヶ島市 利用しやすい施設にしていきたい。

【駅通り整備の実現性】

参加者 都内から転入してきた人が鶴ヶ島市について「こんな住みやすいところはない。とても気に入っている」と言っていた。鶴ヶ島駅通りから関水金属まで道を拡げて歩きやすくするのはとても良いと思うが、実現可能性があるのか心配である。

鶴ヶ島市 鶴ヶ島駅通りの道幅を拡幅するわけではない。今ある道路の段差をなくし、無電線化にすることで歩きやすくなり、かつ、安全・防災、景観に資する整備を進めることができる。

経費の約12億7千万円のうち、国庫補助等が約10億円、市の一般財源が約2億5千万円の予定。立地適正化計画による都市機能誘導区域に指定されていることによる、補助金の上乗せも見込んでいる。今後、計画的に事業を進めていきたい。

【鶴ヶ島文化会館解体費用の負担と市長の指示】

参加者 鶴ヶ島文化会館の解体費用は市と自治会、どちらが持つのか。また、齊藤市長からはどのような指示が出ているのか。

鶴ヶ島市 鶴ヶ島文化会館の解体費用は、市と自治会双方の負担となるが、市の負担の方が大きくなると想定している。

令和4年度、市民の皆さんの御意見を反映する形で鶴ヶ島駅周辺地区まちづくり構想を策定した。それを受け、齊藤市長からも行政としてしっかり進めるよう指示があった。市長としては、鶴ヶ島駅周辺の都市整備がなかなか進められなかったことを気に掛けており、今回の計画に期待している。

【どんぐり公園の存続と交差点の安全性】

参加者 南市民センターとともに、どんぐり公園もなくなるのか。

また、これから車が増えることが予想される中で、共栄鶴ヶ丘線と鶴ヶ島駅通りとの交差点については安全面での不安がある。

鶴ヶ島市 どんぐり公園の廃止や移転は予定していない。

歩行者の安全対策として、車道を狭めるなどの工夫で速度の抑制をしていきたい。安全性の確保のため、共栄鶴ヶ丘線との駅通りの交差点は、先行して整備を進める予定である。

【今後の意見聴取と延べ床面積】

参加者 施設の延べ床面積が約 1,500 m²から約 1,000 m²になるというが、高齢者の利用や避難所などをどう考えていくのか。利用者の考えをよく聴きながら進めていただきたい。アンケートを実施したのは良かったと思う。ただし、3回予定しているワークショップ以外に、意見を揉む機会がないとまとまらないのではないかと。集まる機会があれば、新たな意見を聞くこともできるし、他の人の意見から気付くことも多い。施設利用者の話し合いを増やしても良いのではないかと。

鶴ヶ島市 利用団体等には、事前にアンケートを実施し、南市民センターの良いところや新施設に望むことなどを伺った。ワークショップでは、これらの意見も加味しながら進めていきたい。ワークショップ以外、自治会や施設利用者意見に意見を聞く機会についても検討していきたい。

公共施設個別利用実施計画では、平屋で約 700 m²、2億5千万円程度を想定していたが、今回の計画では2階建て約 1,000 m²、約 6億円で整備する方向に見直している。

【新施設の延床面積】

参加者 新しい施設が 1,000 m²とのことだが、大丈夫なのか。

鶴ヶ島市 面積 1,000 m²は目安として示したものである。南市民センターの稼働率は 40%を切っている。鶴ヶ島文化会館は更に低い。利用状況を考えると、新しい施設をどう機能的にしていくかが重要。一例だがパーテーション等を使用するなどして、多機能施設にしていく可能性もある。

参加者 1,000 m²もまだ決まっていないというが、2つの施設が1つになり、利用自治会が倍になると、ある時間帯に予約が殺到することが想定される。このままでは、若い人の活用は更に進まなくなる。延床面積が広がる可能性はないのか。

鶴ヶ島市 鶴ヶ島駅周辺地区まちづくり整備計画では約 1,000 m²、2階建てを想定しているが、令和6年度にワークショップ等でご意見をいただき、間取り等を検討していく。

【道路整備の優先と意見の反映】

参加者 現在の道路状況は小学生にとって危険。商店街や公園の整備より道路整備を優先させるべきだと思う。人口にみあった立地に集約することになるが、避難所として窮屈にはならないかが心配である。前回の説明会に参加したが、その時の意見がどう消化されたかが見えてこない。ワークショップでは、それまでに出了意見がどう消化されたかを説明して欲しい。

鶴ヶ島市 道路整備と商店街の魅力創出、どちらも進めていきたい。道路は令和6年度には測量・設計に取り掛かるが、令和7年度以降の工事は区間全てを一斉には進められない。ご理解いただきたい。

令和6年度のワークショップでは、それまでの意見がどうなったかをお示ししたい。

【移転先決定の理由等】

- 参加者
- ・移転先を鶴ヶ島文化会館に決めた理由・経緯。
 - ・令和4年度に候補地を決めるための検討委員会を設けたか。
 - ・検討委員会を設けた場合、関係議員も入れたか。

- ・移転決定表明はいつなされたか。
- ・なぜ、この金額となったのか。
- ・鶴ヶ島文化会館の歴史から見ても、この計画には問題が多すぎる。進め方にも問題がある。市長には猛省をお願いしたい。市長の生の声を聞きたい。
- ・1月14日の説明会時と平面図が違っていることについて、市民に説明する必要がある。

鶴ヶ島市 移転先の決定については、令和元年度の立地適正化計画及び令和3年度の公共施設個別利用実施計画で、アンケートやパブリックコメントを受けて方針決定をした。こうしたことから、候補地を決めるための検討委員会は設置していない。

令和4年度には、鶴ヶ島駅周辺地区まちづくり構想策定のための説明会やアンケート、関係団体のヒアリング、ワークショップ、パブリックコメントを実施した。ワークショップではまち歩きを実施し、課題を確認し御意見を頂いた。まとめた計画を元に国庫補助金の申請を行った。金額の根拠については、材料の高騰なども見据えたもので、相応の額と考えている。

鶴ヶ島文化会館の歴史について伺い、講堂にある寄付者の名前札も拝見した。先人が鶴ヶ丘だけでなく、市全体の将来を見据えて鶴ヶ島文化会館と命名した様子が伺えるものだった。

鶴ヶ島文化会館運営委員会からは、老朽化による建て替えを相談されていた。これまでに二度、要望書をいただいております、今回の計画はそれを受け止めたものでもある。

1月14日の説明会時とイメージ図が異なるのは、施設の内容は決定したのではなく、これから検討していくものなので、誤解のないよう差し替えた。

【移転先の候補地の検討】

参加者 鶴ヶ島文化会館に決まる前に候補地を検討したか。理由がわからないと、鶴ヶ島文化会館への移転を認めることはできない。

鶴ヶ島市 公共施設個別利用実施計画を策定する際に、南市民センターをどこに移転すべきか検討する中で、市の所有地である鶴ヶ島文化会館が最も適していると判断した。

参加者 聞いた話によると、鶴ヶ島文化会館の土地は市に譲渡されたものだという。

鶴ヶ島市 鶴ヶ島文化会館の敷地が市へ譲渡されたという話だが、文化会館の敷地は当時、市が所有者から購入したものである。

【病児保育の要望】

参加者 子どもを増やしていく方向に考えを切り替えて欲しい。病気の時に子どもが預けられないという話をよく聞く。市内の病児保育施設では病気の子どもを預かってくれているが、足りていない。駅前のTSUTAYA跡地を病児保育の場にするなどを考えて欲しい。

鶴ヶ島市 子育てに関する施策として、来年度から病児保育の無償化を実施する予定で予算案を計上している。形としては、坂戸鶴ヶ島医師会が推薦する当該病児保育施設でかかった費用を市が負担することになる。

【3階建て選択肢の有無・駐車場の確保・海洋センターでない理由】

参加者 人口が減少するにしても狭すぎる。3階建ての選択肢はないのか。敷地が狭いことでの駐車場の問題、関水金属社員の通勤による交通量の問題等からすれば、鶴ヶ島文化会館の敷地は適地ではないと思う。移転先が海洋センターでない理由は。

鶴ヶ島市 現在、3階建ての想定はしていない。この場では3階建てにできる、できないの回答はできない。

駐車場については、下水道の上に蓋をすることで、南市民センターとほぼ同じ台数を確保できる。交通安全の問題は、関水金属と協議しながら、必要な対応をしていきたい。

海洋センターは、公共施設個別利用実施計画において、機能を西中学校へ移転後に廃止する予定である。海洋センター敷地の半分以上は私有地。市の土地もあるが、接道面が主要道路に接しておらず、出入りの課題もあって、公共施設用地としては適していない。宅建協会にも意見を伺ったが、売却し、住宅地にすることが望ましいとの意見をいただいている。

- 参加者 南市民センターが、1,000 m²、2階建てと計画された経緯は。鶴ヶ島文化会館の敷地は何階建てまでできるのか。
- 鶴ヶ島市 人口減少や少子高齢化、稼働率を見込んで縮小の考えに至った。縮小ではあるが、多機能を備えた施設にしたいと考えている。

【市民センターの稼働率】

- 参加者 市民センターの部屋がふさがっていて辞めたサークルが多い。稼働率は高いのではないか。
- 鶴ヶ島市 稼働率は、コロナ前の平成30年度は34.1%、コロナ後の令和4年度は26%だった。面積の大小もあるが、新しい施設は、運用面での工夫もこらし、使い勝手の良い施設にしていきたい。

【稼働率アップと話合いの場】

- 参加者 稼働率が下がっているから縮小するのではなく、稼働率を上げる努力をするのが地域の力を育てることに繋がるのではないか。地域活動支援として、ハード・ソフトの両面からフォローできているのか。1,000 m²では足りない。
- 鶴ヶ島市 市民センターは、地域の力を育てるため、ハードとソフト両面から支援している。移転後の新施設では、設備の運用面でも工夫をして、地域支援に繋げていきたい。

【ワークショップへの参加】

- 参加者 この場で、皆さんが意見を述べてもきりがない。1回目のワークショップまでに、各自で意見を整理し、持ち寄って検討していけばいいのではないか。ワークショップで意見をぶつけて、やはり2,000 m²必要だったなどとなるかもしれない。
- 鶴ヶ島市 ワorkshopについては、広報や南市民センターだよりで周知するので、ご参加願いたい。

【その他の意見や要望】

- 参加者 新しい施設では、バリアフリー化が進むことが期待され、障害者としてはありがたい。利用しやすい施設とするために、館内にも点字ブロックの設置やトイレの音声案内があるとありがたい。
- 参加者 1,000 m²ではとても間に合わない。高齢者は増え続けている。鶴ヶ島第二小学校を利用すればよいのではないか。
- 参加者 利用者の意見を十分に聞いて新しい施設をつくっていただきたい。
- 参加者 この地域には児童館もない。子育て世代に優しい機能の設置と図書館機能の移転を要望する。